

## キャリア教育ガイドライン

### 1. 趣旨

大学は、建学の理念に基づく教育研究活動を通じて学部・学科等が掲げる人材養成の目的を達成し、その“人財”を社会に送り出す責任を負っている。この自覚の下に、東洋大学では、地球社会の発展に貢献できる“グローバル人財の育成”という大学全体の教育目標を掲げ、これを実現するために哲学教育、キャリア教育、国際化教育を教育の3つの柱としている。

教育の柱の一つであるキャリア教育の現在の枠組は、正課において基盤教育に設置されている「キャリア・市民形成」科目と各学部・学科等がそれぞれの専門性に即して設置している科目とでキャリア教育を展開し、正課外において就職・キャリア支援部が主に実際の就職活動に向けた支援講座等を実施するという構成となっている。

次節に述べるようにキャリア教育の充実に対する社会的需要が高まるなか、本学においても学生の際立った成長のために、特に正課においてキャリア教育をより拡充、高水準化し、大学院進学や留学を経て就業する場合を含む多様なキャリアパスにとって実効性のあるもの、卒業生を送り出す社会に対して訴求力のあるものとしていくことが求められている。そのためには、キャリア教育に係る全学方針を明確にしてそれを各学部のカリキュラムに反映させること、各学部・学科等で展開される個別の取組について全学で情報を共有し、総合大学の強みを生かすべく協働を促進すること、そのような正課のキャリア教育を正課外で行われる就職・キャリア支援部による取組、研究科による学部生向けプログラム、国際教育センターによる留学支援プログラムなどと有機的に連携させることが重要となる。

2021年度の全学的なカリキュラム改訂に向けて上記の検討を行うことを目的に、全学カリキュラム委員会の下にキャリア教育連絡会を設置して意見交換を重ねてきた。本ガイドラインは、本学のキャリア教育に係る基本的な考え方を示すものである。カリキュラム改訂では、教育の質的転換に資する3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に照らして現行カリキュラムの検証を行い、その結果として把握された課題に対する改善の方策を検討したうえで、これらのポリシーについても見直しを行い、改訂されたポリシーのもとにカリキュラムを編成する。各学部・学科等におかれては、3つのポリシーの高水準化に取り組む際に、また、2021カリキュラムにおいてキャリア教育プログラムを策定する際に、本ガイドラインを参照されたい。そして、専門性に即したキャリア形成という観点に加え、専門的能力と対比される汎用的能力（ジェネリックスキル）の伸長、職業キャリアと対比されるライフキャリアの展望という要素も勘案して、大学での学びをとおして社会でのより良い生き方を考えるということも学生が意識できるように、各学部・学科等のキャリア教育の確立を目指していただきたい。

## 2. 背景

### (1) 政策的変遷

キャリア教育の必要性が認められるようになったのは、半世紀前は 20%に満たなかった高等教育機関進学率が 2000 年代に入って 50%を超えるユニバーサル・アクセス時代を迎え、多様な学生の受入れに応じて教育の内容と方法の見直しを迫られるようになったのと時を同じくしている。現在では、進学率は 80%を越え、大学だけをとっても 50%を越える状況にあり、キャリア教育の重要性はさらに高まっている。加えて、技術革新に起因する社会経済・産業的環境の国際化が産業・職業界に構造的変革をもたらし、我々の日常生活にも多大な影響を及ぼしたことも、キャリア教育に対する要請に拍車をかけている。

大学は、多くの学生にとって社会に出る直前までの時間を過ごす場であり、学生が自らの視野を広げ進路を具体化していく段階の学びを提供する。特に、今日のように経済・社会状況の激しい変化や価値観の多様化が進む時代にあっては、また、進学率の上昇により卒業後に求める進路や生き方も多様化している現況においては、大学において社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を養うことがますます重要となっている。

このような状況を踏まえて文部科学省で「キャリア教育」という文言が初めて登場したのは、1999 年に公表された「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」である。ここでは、キャリア教育は「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と説明され、体験的な学びを重視しながら発達段階に応じて実施することが提言されている。その後も、若者自立・挑戦プランをはじめ、種々のキャリア教育推進施策が展開されている。

2008 年の「学士課程教育の構築に向けて（答申）」では、「何を教えるか」よりも「学生が何を身に付けたか」が重視され、大学が社会へ送り出す卒業生が備えておくべき資質・能力を定めた学士力が参考指針として示された。また、「キャリア教育を、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すものとして、教育課程の中に適切に位置付ける」として、体系的な教育課程の編成への考え方を打ち出している。

2011 年になると、キャリア教育そのものを主題に据えた「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」がまとめられ、「キャリア教育の推進に関する方針を明確化し、教職員の理解の共有を図った上で、教育課程の内外を通じて全学的な取り組みを推進することが必要である」とキャリア教育に対する積極的な取り組みが提言されている。

さらには、2018 年の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」においては、人生 100 年時代を迎え、キャリアパスが従前の単線型ではなくさまざまなキャリアを生きる複線型になる可能性を踏まえ、「高等教育機関と産業界が流動性を高めて多様なキャリアパスを実現することが重要であると述べている。

情報化と国際化が進んだ今日の知識基盤社会においては、「基礎的な知識のほか、汎用的な技能、態度や志向性、統合的な学習経験と創造的思考力など、多様な課題に対応し得る能力」が求められている。また、Society5.0 に向けて新たな価値を創造する人財を育成していくためには、「様々な社会課題に向き合う姿勢、それを支える基盤的かつ専門的な知識、

さらに時代の変化に即応していくための生涯学習能力や他者との協調性、対話能力などが  
培われていくことも重要となっている。

## (2) インターンシップを取り巻く概況

体験型の学びを重視する観点からインターンシップのより一層の推進が求められるようになり、1997年に当時の文部省、通商産業省、労働省において、インターンシップに関する共通の基本的認識や推進方策が「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（いわゆる「三省合意」）として取りまとめられた。

その後、企業によるインターンシップの実施が徐々に拡大してきた一方で、単位認定を伴うインターンシップの参加率が低い状況や、大学等の関与が弱い場合も散見され、量的にも質的にも課題が残されていた。

そこで、これまでの三省合意に則りつつインターンシップのさらなる充実を図るため、2017年に「インターンシップの推進の更なる充実に向けて」及び『「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」に係る留意点について～より教育的効果の高いインターンシップの推進に向けて～』が発出され、併せて届出制度や専門人材の育成・配置等の方策が講じられている。より高い教育的効果を確保するために留意することが求められているのは、インターンシップの実施に当たって以下の水準を満たすことである。

《「正課の教育課程としてのインターンシップ」に必要な要素》

- ① 就業体験を伴うものであること
- ② 大学等において、正課の教育課程の中で明確に位置付けられた授業科目であること
- ③ 実習の事前に学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせを行うことや、実習期間中にモニタリングを行うこと、事後に振り返りを行うことなどを含めて、適切な学生指導の時間が設けられていること
- ④ 実施後の教育的効果を測定する仕組みが整備されていること
- ⑤ 原則として実習期間が5日間以上のプログラムであること
- ⑥ 大学等と企業が協働して行う取組であること

## (3) 社会人として求められる能力因子

汎用的能力（ジェネリックスキル）の重要性は、OECDが「キーコンピテンシー」を定義する取組を展開して国際的に認識されるようになり、日本においても経済産業省が「社会人基礎力」、文部科学省が「学士力」を提唱するなどしている。これらの枠組みにより記述される汎用的能力は、企業・産業界からも求められている。（それぞれの定義については資料編を参照。）

このような社会的需要を踏まえ、各枠組みが定義する汎用的能力の構成要素を各学部・学科の教育研究上の特性に照らし合わせながら、それぞれの人材養成上の目的にかなう必要な能力要素として捉え直し、これを学生が身に付けられるようなキャリア教育プログラムを構築する必要がある。

#### (4) 本学のキャリア教育の現状

本学の現行カリキュラムでは、基盤教育に「キャリア・市民形成」を明確に位置付け、当該科目群に社会人基礎力や就業意識の向上を図る科目を配置している。また、いくつかの学部・学科等では、専門分野に即したキャリア教育科目、インターンシップ、フィールドワークや実地研修等の実践的科目を独自に展開している。

しかしながら、基盤教育の「キャリア・市民形成」の構成、すなわち各科目の位置付けや相互の関連性については検討の余地がある。インターンシップやボランティアへの参加を促す入門科目は設置されているが、大学が深く関与してこれらの活動を実践する科目、これらの活動に取り組んだあとの発展を促す科目などは明確に正課教育に位置付けられておらず、体系的な学びを十分に促しているとは言えない。そのほか、正課内外のプログラムの有機的な連携も課題となっている。

また、カリキュラムの運用においても検討すべき課題がある。基盤教育における「キャリア・市民形成」科目と学部・学科等のキャリア関連専門科目との関連性については学部・学科等の努力に委ねられており、それぞれの取組みの充実に濃淡がでている。設置科目はキャンパスごとに個別に展開されているため大学全体として一貫性に欠けるところもあり、全学生が履修できる体制が整備されていない。

さらには、「高度な人材の養成」という役割が期待される大学院については、「学生の進路や就職などに対する意識が十分とは言えないという指摘がある」ことが2018年の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」で述べられており、この状況を反映して大学のキャリア教育・支援の枠組みのなかに大学院進学が位置付けられることが少ない。また、本学が推進する国際化教育に関しては、海外からの留学生を対象とする就職支援の取組は文部科学省の「留学生就職促進プログラム」に採択されている一方で、在学中・卒業後にかかわらず留学を志望する学生の数は少なく、国際的なキャリアパスに向けた留学支援が十分に機能していない。このような現状に鑑み、キャリア教育の充実には研究科や国際教育センターとの連携強化が図られる必要がある。

このような経緯から、本学が抱える課題を次のようにまとめることができる。

- (ア) キャリア教育の方針に係る共通認識が形成されていない（求める学修成果等）。
- (イ) キャリア教育の体系が確立されていない。
- (ウ) キャリア教育の実施体制が十分に備わっていない（キャンパス間格差等）。
- (エ) キャリア教育における学内の組織的な連携が十分に図られていない。

冒頭に述べたように、進学率の高まりにより高等教育のユニバーサル化が進展し、職業キャリアに向けた進路選択が大学卒業時に行われることが増えている。本節に示した背景を踏まえ、社会的需要に即したキャリア教育プログラムの策定と実施に取り組むことが重要である。

### 3. 東洋大学のキャリア教育に係る方針

#### (1) 「東洋大学スタンダード 2021」に基づく質保証

東洋大学の卒業生に共通して求められる社会的・職業的な資質・能力をすべての学生が獲得できるように、全キャンパスで共通の方針の下にキャリア教育プログラムを展開する。

#### (2) 体系的かつ順次的なキャリア教育プログラムの構築

座学による知識の獲得と実践による技能・行動特性の発達とを相乗的に図る（体系的）。また、各学部・学科等の専門性に即して行われる基礎から発展・応用に向かう段階的な学びを促すことに加え、社会人に求められる礼節、良識といった基本的行動規範から職業人に求められる倫理、法令遵守意識までを涵養する（順次性）。

#### (3) 総合大学の強みを生かす汎用的、文理横断的な職能基盤の開発

社会の多様性に対応できる人材の育成に向けて、学部間の垣根を超えて広範な素養を修得できる教育プログラム、大学院進学や留学を経て高度に専門的、国際的なキャリアを志向するための研究科・国際教育センターとの共同プログラムを開発、提供する。

#### (4) 実効性のある、社会と向き合うキャリア教育の展開

普遍的に求められる知識・理解、汎用的な技能等がより確かに身に付けられるように教育の内容、方法を改善し、さらに、時代の変化に合わせて必要な知識、スキル、能力を柔軟かつ迅速に学修内容に取り入れていけるように、正課内外を併せてキャリア教育プログラムに係る PDCA を展開する。

### 4. 2021 カリキュラム策定に向けたキャリア教育のガイドライン

#### (1) キャリア教育の定義

中央教育審議会は、キャリア教育を以下のように定義している。

##### (ア) 中央教育審議会によるキャリア教育の定義

キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を指す。
--------------------------------------------------------------------

「キャリア」とは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や、自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねを意味する。また、「キャリア発達」とは、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を指す。

この基本的な定義を踏まえつつ、東洋大学の建学の理念および「東洋大学スタンダード 2021」を重要な観点として、東洋大学のキャリア教育の方針を(イ)のように定める。

## (イ) 東洋大学のキャリア教育

自らの希望、強みと弱み、長所と短所を知る。  
自分たちが生きる社会の課題を理解する。  
その中で自らの役割を見出し、社会のために働く。  
これらのために必要な知識や態度を学び、よりよい生き方を考える力を育てるのが東洋大学のキャリア教育である。

仕事は、「自分のやりたいこと」「自分のできること」「社会のニーズ」の重なったところで決まると考えられます。これを理解し、自分の役割を見出すには、一定の知識や態度が必要です。これらを学び、自分らしい、納得のできる生き方が何かを考えることのできる力を育むことを、東洋大学のキャリア教育は目指します。

## (2) 東洋大学のキャリア教育により育成する態度、知識、能力

### (ア) 東洋大学のキャリア教育における「リテラシー」と「コンピテンシー」

キャリア教育では、インターンシップなど実地に学ぶ方法が重視される傾向にあるが、本学の教育の柱の一つとして展開するキャリア教育では、そうした体験による学生自身の気づきをとおした成長が、包括的な教育プログラムのなかに位置付けられることで、より発展性を備えた確かなものになると考える。キャリアは個々人の生き方にかかわる要素が大きいので、キャリアを選択するにあたって職業体験を自らの特性に照らして考えたり判断したりすることが有効であることは論をまたない。また、大学が多様な学生を受け入れ、複雑さを増す社会に対応できる多様な人財の育成を求められる現状においては、早期から職業体験の機会を増やし、様々なキャリアの可能性を探ることが有効であることも当然である。

しかし、正課においてキャリア教育を展開するのであれば、そうした実践による学生自らの成長だけでなく、相応の体系性と順次性を備えた教育プログラムによる学修をとおして段階的に学生の成長を導くこと、そして、そのプログラムの有効性を検証し改善していくことが必要である。

この観点から、本学のキャリア教育を通じて学生が身に付ける力（態度、知識、能力）は、次の2つの要素が考えられる。

ア. 【リテラシー】 ものごとを適切に理解・解釈・活用する力

イ. 【コンピテンシー】 ものごとに主体的に取り組む態度・行動・実践していく力

これらの要素は、キャリア教育の文脈で次のように捉えなおすことができる。

ウ. 【キャリアリテラシー】：自分のキャリア（生き方や仕事）に関して適切な判断や意思決定をするための知識、スキル、支援を持ち、活用する力<sup>1</sup>

エ. 【キャリアコンピテンシー】：どのような状況にあってもそれと向き合い、最大限の成果を出せるように自分をモチベートし、キャリアを切り拓いていける力<sup>2</sup>

これらの定義を踏まえ、以下のオ～クに示す手順で抽出した。キャリアリテラシーとキャリアコンピテンシーの構成要素をケに示す。

オ. キャリア教育連絡会での意見交換により本学のキャリア教育において重要と認められた能力、行動特性を、キャリアに関する議論で用いられる概念である「社会人基礎力」「学士力」「OECD コンピテンシー」の項目と対応させた。対応する項目のないものについては、キーワードを抽出して新しい項目を作った。

カ. これらの項目を、2021 カリキュラム策定の方針である「東洋大学スタンダード 2021」との関連性を整理した。

キ. 上記カで「東洋大学スタンダード 2021」と対応させた項目のうち、類似するものをグループ化し、東洋大学のキャリアリテラシー、キャリアコンピテンシーとして、文言を作成した。

ク. 各キャリアリテラシー、キャリアコンピテンシーと PROG 項目を対応させた。PROG と対応させたのは、学生のキャリアリテラシー、キャリアコンピテンシーの伸長を測定する際に活用するためである。PROG に対応する項目がないものについては、今後、測定項目を新規に作成する必要がある。

\* 「東洋大学スタンダード 2021」、抽出されたキャリアリテラシー、キャリアコンピテンシー項目、PROG 項目との対応については資料編を参照すること。

---

<sup>1</sup> Massachusetts Institute for College & Career Readiness (2015) “Starting a National Conversation on Career Literacy “  
<http://sites.bu.edu/miccr/files/2015/09/Symonds-PPT-Solberg-Webinar-on-Career-Literacy.pdf>

<https://globalpathwaysinstitute.org/events/career-literacy/>

<sup>2</sup> 花田光世 (2001) 「キャリア・コンピテンシーをベースとしたキャリア自律の実践と支援体制の構築を」『人材教育』13(7), 12-18

ケ. 東洋大学のキャリアリテラシーとキャリアコンピテンシー (案)

東洋大学スタンダード 2021	キャリアリテラシー	キャリアコンピテンシー
①「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力	○生き方、人生に対する思考	○自律的に学習し、人生を豊かにする力 ○ものごとを熟考し、行動に移していく力
②「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力	○良い生活習慣、マナー	○自分自身を管理する力 ○規律性・倫理観を踏まえて行動する力 ○主体的に行動する力
③「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力	○市民として社会に貢献しようとする意識	○大きな展望を持って判断、行動する力
④変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる創造力とイノベーション力	○社会に対する関心と理解 ○数量的なスキル ○基本的なビジネススキル ○ITを活用するスキル ○論理的な思考	○課題を発見し、問題を解決する力 ○創造的な方法を生み出す力（或いは、既存の考えにとらわれないう、新たな方法を生み出す力）
⑤グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力	○言語能力（読む、書く、聞く、話す力） ○異文化の受容と理解	○意見を主張し、合意を形成する力 ○リーダーシップ、フォロワーシップを発揮して協働する力 ○他者と良い関係を構築する力

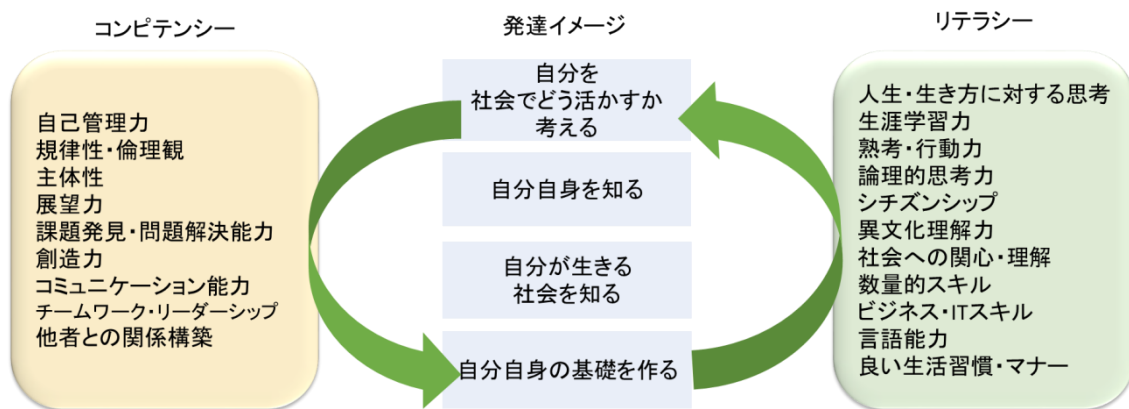
【フォロワーシップ】自分自身と組織に対する責任を引き受けて、リーダーを支えるための役割を担いながら、必要に応じて異なる意見を出し、組織の目標の達成を目指す行動。<sup>3</sup>

<sup>3</sup> Chaleff, Ira (1995) *The Courageous Follower Standing up to & for our Leaders*, Berrett-Koehler Publishers (野中香方子訳 (2009) 『ザ・フォロワーシップ—上司を動かす賢い部下の教科書—』ダイヤモンド社)。



### (イ) キャリアリテラシーとキャリアコンピテンシーの発達イメージ

多くの学生は、就職活動が近づくにつれて、社会の課題や自分の興味や適性などについて、次第に具体的なイメージを持つようになってくる。まずは自分自身の基礎を作る段階から始まり、次第に社会に目が開かれて課題を発見し、その中で自分をどう生かしていくかを考え、就職へと段階を踏んでいく。それに伴い学生のキャリアリテラシー、すなわちキャリアに関する適切な意思決定をするために、学生が身に付ける知識やスキルはより高いレベルとなり、必要とする支援もより具体的になる。また、これらを活用する力も向上する。キャリアコンピテンシーは、どの学年においても必要とされる力であるが、キャリアリテラシーの発達に応じて、キャリアコンピテンシーもそれぞれ強化されていくものと考えられる。発達イメージの上位の段階に進んだところで、下位の段階でのキャリアコンピテンシー、キャリアリテラシーをより発達させる必要性に気づき、それに取り組むといった循環も起こりうる。



### (3) キャリアリテラシーとキャリアコンピテンシーの発達イメージ（詳細）

以下の表に、キャリアリテラシーとキャリアコンピテンシーの発達イメージと、それぞれの段階における活動のキーワードをまとめた。また、発達イメージに対応する学年の目安も左に付した。

	発達イメージ	活動キーワード
4年次	<p>《自分を社会でどう活かすか考える》</p> <p>自分の進路（働く場所や仕事内容）、進学先が決まる。活動過程で気づいた、社会人になるまでに身に付けるべき能力や知識の獲得に努力する。職業キャリアだけではなく、どのように生きていきたいか、ライフキャリア（家庭、地域、生涯学習など）という視点でも自分のこれからを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職活動、大学院受験</li> <li>○社会人への準備（幅広い知識、問題意識、社会人らしい振る舞い等）</li> <li>○ライフキャリア（仕事以外の活動—家庭、地域、生涯学習など）のデザイン</li> </ul>
3年次	<p>《自分自身を知る》</p> <p>自分の興味、長所や得意なこと、短所や苦手なこと、それらがどのように育まれてきたかについて語れるようになる。自分が興味を持つ業界、業種、企業の内容や、そこでの働き方について具体的な考え情報を持ち、それを経験する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のブランディング（興味、特徴長所等を整理し、語る）</li> <li>○業界、業種、企業の情報収集</li> <li>○働くことに対する具体的なイメージを持ち、意義を認識する（短期・長期インターンシップ参加など）</li> </ul>
2年次	<p>《自分が生きる社会を知る》</p> <p>メディアの視聴や様々な活動への参加を通し、自分が生きる社会の状況を学ぶ。同時に、働く人を取り巻く環境や課題、取り組みについて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会で起こっていること、課題、自分たちとの関係について知る</li> <li>○働くことやキャリアに関する基礎知識を修得する</li> <li>○様々な経験をする（長期インターンシップ、短期留学など）</li> </ul>
1年次	<p>《自分自身の基礎を作る》</p> <p>大学生として、成人として基礎的なアカデミックスキルやマナーを身に付けるとともに、自分の興味を広げてそれまでの自分の固定概念を壊す。4年間で様々な経験を積み、充実させるためにはどうしたらよいかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アカデミックスキル、マナー、良い生活習慣（食事、睡眠、健康、学習）を身に付ける</li> <li>○ボランティア等を始めて視野を拡大する</li> <li>○4年間の過ごし方を考える</li> </ul>

(4) キャリアリテラシーとキャリアコンピテンシーの発達イメージと正課外プログラム

上述したキャリアリテラシーとキャリアコンピテンシーの発達イメージに即して学生を育成するためには、それに対応した正課および正課外プログラムを整備する必要があります。各学部・学科等で提供している正課プログラムおよび正課外プログラムについては、各学部・学科等で提供されている授業を今後それぞれ整理されたい。正課外プログラムのうち、大学が提供するものは以下の表の通りである。

発達イメージ	キャリア形成支援	業界、業種、企業を知る	インターンシップによる就業経験等	ボランティア活動	
4年次 自分を社会でどう活かすか考える	未来を拓くトップセミナー	学内・学外企業説明会 大学院進学説明会		各種ボランティア活動参加支援	
3年次 自分自身を知る		職種研究セミナー	インターンシップ参加支援 インターンシッププログラム		
2年次 自分が生きる社会を知る		1・2年生のための内定者報告会			
1年次 自分自身の基礎を作る		PROG 受験 PROG 面談指導、活用ガイダンス			

## 各プログラムの概要

<b>&lt;キャリア形成支援&gt;</b>		
○未来を拓くトップセミナー【全学年対象】 各界において指導的立場で活躍している方々を講師として招き、将来への指針となる講演を聞くことで、キャリア形成に役立てる機会を提供する。		
○内定者報告会【全学年対象／低学年対象】 どのような就職活動をしたか、今やっておくべきことは何か、どのような学生時代を過ごすか等を、内定者から直接アドバイスを受ける機会を提供する。		
○PROG【1年生／3年生対象】 1・3年生を対象に、4月にPROGテスト（社会人として活躍できる汎用的な能力「知識活用力」「行動実践力」の二面から測るテスト）を実施する。		
<b>&lt;業界、業種、企業を知る&gt;</b>		
○職種研究セミナー【全学年対象】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界理解セミナー</li> <li>・企業をつながり理解セミナー</li> <li>・総合職セミナー</li> <li>・グローバル・外資系企業セミナー</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「就職四季報」を使った業界・企業の探し方</li> <li>・職種セミナー</li> <li>・卒業生による就活応援座談会</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>業界・業種・職種等の就職活動に必要な基礎知識や、志望する業界・業種の絞り方等を詳細に説明する。業界理解セミナーは各業界の代表企業等を招き、業界の特徴や仕事内容に関する講演を聞く機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界理解セミナー</li> <li>・企業をつながり理解セミナー</li> <li>・総合職セミナー</li> <li>・グローバル・外資系企業セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就職四季報」を使った業界・企業の探し方</li> <li>・職種セミナー</li> <li>・卒業生による就活応援座談会</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界理解セミナー</li> <li>・企業をつながり理解セミナー</li> <li>・総合職セミナー</li> <li>・グローバル・外資系企業セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就職四季報」を使った業界・企業の探し方</li> <li>・職種セミナー</li> <li>・卒業生による就活応援座談会</li> </ul>	
○学内・学外企業説明会【3・4年生対象】 本学学生の採用に強い意欲を持つ企業を招き、企業の特徴や求める人材等の説明を聞く機会を提供する。		
<b>&lt;インターンシップ・ボランティア等&gt;</b>		
○インターンシップ参加支援【全学年対象】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップガイダンス</li> <li>・インターンシップ事前・事後研修</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、企業説明会</li> <li>・インターンシップ選考対策講座</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>インターンシップ参加希望者を対象に、インターンシップの目的、準備しておくべきこと等をアドバイスする。事後研修では、振り返りや今後の就職活動への生かし方等を議論する機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップガイダンス</li> <li>・インターンシップ事前・事後研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、企業説明会</li> <li>・インターンシップ選考対策講座</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップガイダンス</li> <li>・インターンシップ事前・事後研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、企業説明会</li> <li>・インターンシップ選考対策講座</li> </ul>	
○インターンシップ・ボランティア【全学年対象】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京商工会議所インターンシップ</li> <li>・海外ボランティア</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外インターンシップ</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>長期から短期まで各種インターンシップへの参加を推奨している。また、世界の企業でグローバルに活躍するための社会人基礎力を身に付けるインターンシッププログラムや、ホームステイをしながらの地域に密着したボランティア活動プログラムを提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京商工会議所インターンシップ</li> <li>・海外ボランティア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外インターンシップ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京商工会議所インターンシップ</li> <li>・海外ボランティア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外インターンシップ</li> </ul>	

※ 就職・キャリア支援部主催の各種プログラムは、その時の就職・求人状況により、随時開催時期や内容を変更し、また新規プログラムを企画・開催している。

### (5) キャリア教育の展開

キャリア教育を実効あるものにするためには、そのPDCA（改善への取組）を教学マネジメントのなかに位置付けることが重要である。カリキュラム編成・実施の主体である各学科・専攻が学科長・専攻長を責任者とする体制の下に行う点検・評価において、キャリア教育についても成果を検証し、その課題の把握と改善に取り組むことが求められる。

その取組の実施については、各学科・専攻の判断によるものであるが、基本的な考え方として、このPDCAを適切に展開するには、キャリア教育のためのプログラムをカリキュラムマップ等に明確に位置付けて実施し、その構成科目について学修成果を測定し、結果に基づく検討を行うことが必要となる。そのプログラムの構成は学部の特性により異なるが（教育・研究が含む実学的要素の度合いなど）、以下に参考として、ディプロマ・ポリシーを中心とする3つのポリシーがPDCAの起点であることを踏まえ、キャリアに係る要素（就業上の資質・能力等）がディプロマ・ポリシーにどれほど具体的に記述されているかという観点から、2通りのキャリア教育プログラムの考え方を示す。

#### (ア) キャリアに係る要素が具体的に特定のディプロマ・ポリシーに記述されている場合

当該ポリシーが求める資質・能力の獲得に向けて配置する科目を中心に、キャリア教育プログラムを構成する。

#### (イ) キャリアに係る要素がディプロマ・ポリシー全般に記述されている・いない場合

就業上の資質・能力の獲得・伸長、キャリア形成に資する知識・技能の修得が期待できる科目（実務的な内容を含む、キャリアの展望を得る、進路選択の参考になる、キャリア発展に寄与する等）を指定してキャリア教育プログラムを構成する。

このようにして編成したキャリア教育プログラムに係るPDCA（案）のイメージは下表のとおりである。

実施内容	実施体制
<p><b>【Plan】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構成科目の順次性、ほかの科目との関係に留意して、カリキュラムのなかにキャリア教育プログラムを埋め込む。 (学部共通科目は学科長・専攻長およびキャリア委員が、基盤科目についてはキャリア教育連絡会事務局が指定)</li> <li>○各構成科目について、また、関連する正課外プログラムがあれば同様にそれについても、伸長すると考えられるキャリアリテラシー、キャリアコンピテンシー項目を抽出し、シラバスに明示する。</li> <li>○「東洋大学のキャリア教育」および学部・学科・専攻のキャリア教育プログラムを解説する学生向け資料を作成する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>キャリア形成の視点から、履修を薦めたい科目と、その科目が何を伸ばしてくれるのかを学生に示すことが目的です。</p> </div>	<p>学科カリキュラム検討組織と連携しながら、キャリア教育連絡会、就職・キャリア支援委員会の教員を中心に作業。</p>

<p><b>【Do】</b></p> <p>○作成したシラバス、資料を用いて、各年次でキャリア教育をとおして学修すべきことを学生に周知、説明する。</p> <p>○正課科目および正課外プログラムを実施する。</p> <p>ガイドラインを配付するだけでなく、学生に直接説明することで、キャリアに対する意識を醸成し、履修に結び付けることが目的です。</p>	<p>年度当初ガイダンス、各年次ゼミ等の教員が担当。</p>
<p><b>【Check】</b></p> <p>○各学部・学科・専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育プログラムの構成科目について、学修成果測定指標検討会議の枠組み又は学部・学科・専攻で独自に策定した枠組みを用いて、学修成果を測定する。</li> <li>・PROG のスコアに基づく分析結果から、伸長に乏しいキャリアリテラシーおよびキャリアコンピテンシーに関係する正課科目、正課外プログラムを確認する。</li> </ul> <p>実施している正課・正課外プログラムによって効果が出ているのかをPROG のスコアを用いて確認し、プログラムの改善に用います。</p> <p>○キャリア教育連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育プログラムの構成科目について、全学的に履修状況や履修科目数とキャリアリテラシーやキャリアコンピテンシーの伸長との相関を調査する。</li> <li>・各学科の PROG 分析結果および全学的な履修関連調査について、情報共有および意見交換を行う。</li> </ul> <p>どんなプログラムが効果的なのか、情報共有をし、良いものを相互に取り入れます。</p>	<p>PROG の分析は RIASEC が担当。</p> <p>学修成果は、全学の枠組みでは高等教育推進センター、キャリア教育連絡会事務局等が分析、調査結果を各学科・専攻に提供。学科・専攻で独自の枠組みを採用し分析・調査を行うことも可。</p>
<p><b>【Action】</b></p> <p>○キャリア教育を学科・専攻の自己点検・評価の対象に含める。</p> <p>○2年ごとに、Check に基づく課題のとりまとめを行い改善の方策を検討する。カリキュラムの進行に併せて実施できる修正があれば、翌年度のキャリア教育プログラムの Plan に反映させる。</p> <p>○（通常は）4年ごとに、Check に基づくキャリア教育プログラムの課題をとりまとめて改訂案を検討し、次のカリキュラム改訂（Plan）において正課科目および正課外プログラムに反映させる。</p> <p>キャリア教育連絡会で共有・蓄積した情報をもとに、大学全体としてのキャリア教育の方向性をカリキュラム改訂ごとに行っていきます。</p>	<p>学科・専攻の点検・評価組織と連携しながらキャリア教育連絡会、就職・キャリア支援委員会の教員を中心に作業。</p>

\*学生に対しては、これまでの PROG 結果を返却。2021 以降は、キャリアリテラシー、キャリアコンピテンシーと対応させた PROG 結果を返す。